

城山会会報

第 52 号

同窓会事務所

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町 1 - 1

福岡教育大学同窓会 城山会事務局

TEL / FAX 0940-33-2211

e-mail joutyamakai@able.ocn.ne.jp

発行者 会長 太田 勝視

発行日 令和 4 年 2 月 24 日

印刷所 松古堂印刷株式会社



同窓の絆を深め、優しさいっぱい城山会に!

会長 太田 勝視



誰もが「今年こそは」と迎えた2021年、しかし私たちの思いは届かずに、新型コロナウイルスは収束せず、いまだに幾重もの感染の波を経験しています。

振り返ると2020年2月9日の「新年の会」、2月16日女性部主催の「2月のつどい」の実施を最後に、城山会活動のほとんどが通常に戻れないままです。本年度も厳しい状況下でのスタートとなりました。年度初めの本部総会を、一堂に会して行いたいという思いから9月に変更しましたが、結果的には書面会議でしか行えませんでした。各支部・各支会総会も同じ状況でありました。このような中での城山会の限られた活動に、皆様のご理解とご協力を頂いていますことに心より感謝を申し上げます。

母校教育大においても、大変な状況であったと思います。感染拡大防止対策を取りながら対面授業を増やしていく、対面と遠隔を組み合わせたハイブリット型授業を取入れるなど、様々な工夫をされています。今では90%以上は、対面での授業が行われています。また学生への経済的支援も実施されています。一人3万円の生活支援金の給付、教科書の宅配販売の送料の助成、食に対する支援等です。

大学の教員採用試験の合格者状況については、学生自身の努力、大学当局の熱心な指導等により、確実に増加しています。令和3年度は407名の合格者を出しています。教員就職率90パーセント達成についても目標に近づいています。これらの母校教育大の取り組みに対し、同窓会としては引き続き積極的に支援をして参ります。

さて、皆様に特別なお知らせがあります。選手や関係者の努力により、多くの人々に勇気と希望を与えた東京2020五輪・パラリンピックについてです。本学4年生の瀬戸勇次郎さんがパラリンピック競技大会柔道男子66kg級で見事に銅メダルを獲得されたことです。この快挙を成し遂げた彼の努力を称賛し、喜びをみんなに分ち合いたいと思います。

昨年度に引き続き今年度も自粛状態が長引くまま11月を迎えました。感染状況が少し落ち着いてきたようでしたので、各支会活動の再開を図るため、県内を8地区に分かれて地区ごとの拡大支会長会を実施致しました。この会議では、コロナ禍における今後の同窓会活動について協議し、共通理解を図りました。

今後の活動の重点として

- ① 支部・支会の組織体制の確立と活動の再活性化
- ② 初任者・若年会員、青年部活動への支援
・新採者激励、若年会員の悩み相談・支援体制、講師への激励
- ③ 大学改革への支援と協力
・大学基金への寄付の推進
- ④ 会報の発行、確実な配付

等が考えられます。今後の城山会活動の取り組みに対しては、会員の皆様の一層のご協力をお願い致します。

終わりに、これから先も普通ではない日常、苦しい日常はまだ続くかもしれません。それでも来年度こそ明るい希望と夢を持って、新たな日常を模索し、優しさいっぱいの城山会活動を進めていくことのできる年にしたいものです。人と人とのつながりを一層大切にしながら、助け合い支え合って、この困難な状況を乗り越えて参りましょう。会員の皆さまのご活躍とご多幸を祈念し、挨拶とさせていただきます。

教員養成教育の充実に向けて

福岡教育大学 学長 飯田 慎司



今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら大学運営にあたっております。城山会の皆様には、日頃より大変お世話になっておることに対し、この場をお借りして、心からの御礼を申し上げます。

6年間にわたる第3期中期目標・中期計画が平成28年度から始まり、本年度はその最終年度にあたります。本学は、義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域の拠点的作用を目指すことを基本的目標として掲げており、令和2年3月卒業生（大学院等進学者及び保育士就職者を除く）550人のうち、正規採用に加えて臨時的任用を含めた教員就職者数は448人で、全国大学中1位、教員就職率は81.5%（令和3年2月文部科学省発表）でした。令和3年3月卒業生もコロナ禍を乗り越えて教員就職者数446人となっており、同程度の水準を維持しています。さらに、現4年生の場合、今夏の教員採用試験に496人が出願し、9月中旬の時点で446人の1次試験合格が判明しています。

このような好結果に満足することなく、本学では現在、小学校の教科担任制への対応、中等学校教員養成の改革、そして教職大学院の拡充等を柱とする教員養成教育の充実のために、第4期中期目標・中期計画の策定およびその達成のための基盤を作っ

ているところです。令和5年度の入学生から、学修者が主体的に学位プログラムを選択して、学修の状況に応じて多様な学校種の教員免許を取得できるような学部教育改革を実施します。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらない状況が続いていますが、コロナ禍にあっても、その状況で最大限の教育成果を挙げる手立てを講じていくことが大学の使命だと考えております。昨年度当初の緊急事態宣言下では、大学を入構禁止として、遠隔授業を工夫することがその時点での最大の使命でした。そして昨年度6月以降、感染拡大防止に十分留意しながら、対面授業をできる限り増やしていくことが使命となりました。今では、対面と遠隔を組み合わせる、いわばハイブリッド型の授業も増えてきています。

Society5.0時代の到来を見据えた中長期的な改革と、コロナ禍で前倒しされたGIGAスクール構想に対応するICT教育の進展という短期的な改革が、今日の教育界には求められてきていますが、初等・中等教育段階におけるこれらの改革を下支えしていくのが、高等教育、とりわけ教員養成教育であると考えます。

新型コロナウイルス感染の一日も早い収束を願いながら、教員養成のさらなる充実に向けて、本学をさらに発展させて参りますので、城山会の皆様には、本学の取り組みへのご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

総会だより

定期総会について

昨年度（令和2年度）定期総会は「コロナ禍」により止むを得ず書面会議としました。本年度は夏から秋には感染者が減少すると考え、第46回定期総会予定日を9月19日（日）に設定し、縮小してでも一堂に会して開催したいと強い気持ちで臨んでいました。しかし、状況が改善しないことから再び書面会議とすることを余儀なくされました。

そこで8月12日、関係者へ「第46回定期総会議案書」と「意見・修正等記入用紙」を配付し、8月30日までに返信を集約しました。その結果、議事は第1号議案から第4号議案まで原案通り可決されました。なお、寄せられました意見や要望は本部で協議し、可能な事柄は採り入れながら進めています。また、3号議案中の「行事予定」はその後の感染状況の推移により実施できなかった行事がありました。

（幹事長 田中和隆）

コロナ下における支部・支会の取り組み

福岡市支会 幹事長 杉山 大樹

令和3年度も昨年度に続き活動自粛で始まりまし
た。時系列で経過報告をします。

- 5月実施予定の年次代表者会 中止
- 6月実施予定の定期総会 中止
 - ・4月24日 終身会員(約500名)へ定期総会中止
のお知らせ・総会議案書・本都会報51号を郵送
 - ・4月27日 福岡市立の各学校(小・中・高・特
支の計227校)へ定期総会中止のお知らせ・総
会議案書・本都会報51号を郵送
- 6月30日 総会議案の議決結果報告を会員へ郵送
- 7月21日 退職された会員(67名)へ終身会費納
入依頼文を郵送。随時、終身会費を納入された方
へお礼状を郵送
- 8月実施予定の現役対象研修会 中止
- 10月1日の緊急事態宣言解除にともない10月31日
第1回役員会を開催し、令和3年度の支会運営と
組織強化について協議
- 今後の予定
 - ・12月5日 拡大支会長会
 - ・1月16日 第2回役員会
 - ・3月 第3回役員会

※コロナ禍を想定した令和4年度の支会活動を検討
していきたいと考えています。

中間支会 支会長 山中 栄夫

今年度も昨年度に続き、中間支会総会はコロナウ
イルス感染防止のため、やむなく中止させていただきました。ただ昨年は、次年度こそは、会員の皆さん
の元気なお姿が拝見できるとの大きな期待を込め
ての中止でしたが、今年度は先の見通しが立たない
ため重く沈んだ気持ちをひきずっての中止でした。

中間市でも、コロナの感染者数は増えています。
こうした日々の中で、高齢でもある先輩会員の現
況が気になり、この際先輩会員の近況等、自由記述
の形で書いていただこうと、総会中止のお知らせと
一緒に葉書を同封しました。

- 以下、返信の一部です。
- 毫碌(もうろく)して死ぬのを忘れ今も生きてい
る。(ただ息をしているだけ)世の中の役に立つ
事何一つできず……○○先生がなくなり昭和時代
の中学校長は私一人になった。
 - 最近、いただいた人権教育の資料を勉強している。
 - コロナが早く通り抜けてくれないと酒の飲み方も
忘れそう。
 - 現在短期大学で「教育原理」などの講義を担当し
ています。
 - 現職会員の皆さん。コロナ禍で大変だろうが、が
んばれ!!
 - 大学を卒業して52年。
まだ、先生しています。
 - 素人農業やってみます。
野菜送ります。



佐賀県支部 会長 青木 一記

1. 総会・懇親会

- ①令和2年度 8月に予定⇒12月に変更⇒中止
 - ②令和3年度 8月に予定⇒11月に変更⇒中止
 - ※令和2年度 中止の連絡(郵送)
- 令和3年度も総会中止 役員会(LINE会議)
を総会の代替えとして、業務及び会計について
審議
令和元年度総会参加者にも審議してもらう(郵
送)。役員改選は行わず、現役員で行う。

2. 会議

感染予防を行い、役員会を数回行ったが、県内
にも感染者が増えてきたときには、LINEでの会
議に切り替える。

3. 会費の徴収

支部としての活動がほとんどできない状況なの
で、令和2・3年とも会費は徴収しない。総会等の
案内を含めた通信費は本部からの助成金で賄う。

青年部の取り組み

青年部 部長 中原 大樹

コロナの影響を受けて、活性化しつつあった青年
部の活動も止まっていた。しかし、学生・新卒・若
手会員情報交換会はなんとか開催しようと、令和3
年3月6日、福岡教育大学キャリア支援センター長
生田淳一先生にご尽力頂き、オンラインで行った。
年度末にもかかわらず、学生・教員を合わせると50
名程度の参加があった。生田先生の司会進行のもと、
8班に分かれて交流をもった。私のグループでは、
「各学校のコロナ対策」「大学時代にしておいた方が
よいこと」「年度末の仕事について」などの質問が
出て盛り上がった。この会を成立させるために、福
岡県8地区及び各支会の青年部長と連絡を取り合い
会議を重ねた。ここでもオンラインで会議を行い、
まさに新しい生活様式での会議の在り方を実感する
こととなった。

今年度も昨年度に続いて、令和4年1～3月にオ
ンラインでの学生・新卒・若手会員情報交換会を行
いたいと考えている。今年度は、福岡県外で頑張っ
ている新卒若手の先生にも参加していただいて、よ
り充実した情報交換会を開催したい。

「完全統合30周年記念誌」について

昨年度(令和2年度)、過去10年間の事績を
まとめた城山会の歩み「完全統合30周年記念誌」
を各支会(支部)に一部ずつ配付しています。
保管と活用のほどをよろしく願います。

記念誌編集委員会委員長 谷 友雄

わたしの教育実践

「学びを止めない」を合言葉に 北九州市立八幡小学校 校長 田頭 麗宏 S60卒



八幡小学校は、明治11年に創立された、開校143年の歴史と伝統をもつ学校です。また、我が国初の本格的な製鉄所である「官営八幡製鐵所」が建設された東田地区が校区内にあります。令和3年度は、13学級、273名の児童が在籍しており、市内小学校で唯一の芝生の運動場で多くの児童が元気に活動しています。保護者や地域の方々も協力的で、教育活動を積極的に支援して下さっています。

しかしながら、一昨年度末からのコロナ禍は、本校の教育活動にも大きな影響を与え続けています。本年度も、県内に緊急事態宣言が度々発令されましたが、特に二学期を迎えるにあたっては、それまで以上に児童への感染が懸念される状況となりました。北九州市では一単位時間40分・4校時授業を実施し、徹底した感染対策をとるとともに、「学びを止めない」ためにオンライン授業にも積極的に取り組むようにしました。本校にも、登校できない、また登校を躊躇する児童が多数おり、8月末から早速オンライン授業を導入しました。といっても、通常の

対面式授業をしながらのハイブリッド型授業です。当初は、タブレット端末の操作がうまくできるのか、形式の違う授業が両立できるのか、といった不安の声も聞かれましたが、まさに「産むが易し」でした。黒板に向けたカメラ（タブレット端末）固定を基本にしつつ、適宜向きを変えて教室内の児童の視点と同様になるようにしたり、持ち歩いて発言する児童と交流させたり、といった操作の工夫がどの教室でも当然のように見られました。

過日の支会同窓会で、大先輩から「師魂」という言葉を教えていただいたことがあります。「学びを止めない」ためには、単にオンラインで児童と学校とを結ぶだけではなく、どんな状況でも、よりよい授業、どの子にもわかる授業を追求しようとする教職員の前向きな姿勢が不可欠だと痛感しています。



ハイブリッド型授業のようす

出会いを大切に

飯塚市立鯉田小学校 教諭 竹田麻依子 H17卒



新規採用教員として赴任して、9年目になります。昨年、赴任校2校目となる鯉田小学校で5年生の子供たちと出会い、今年度は6年生へと持ち上がりました。ただ、コロナ禍ということもあり、休校になったり活動が制限されたりした毎日でした。

異動してきて、新たに子供たちと出会い、日常が変わることに対してとても不安を抱く子供たちだということに気づきました。「良い出会いは、人を変える。」ということを念頭に、子供たちには色々な人や出来事との出会いを経験させたいと思いました。

一つ目の出会いは、飯塚市の取り組みである、外国語科のオンライン英会話があります。月に2回程、子供たち一人ひとりが、オンラインで外国の先生と英語で対一の会話をします。子供たちの相手をする先生は毎回変わり、子供たちにとっては毎回新しい出会いの機会になっています。子供たちは緊張しながらも、教科書で学習した言葉や表現を使って、先生の話の聞いたり自分のことについて伝えたりすることが上手になってきています。何よりも一生懸命に自分のことを伝えようとする姿が見られ、この出会いの成果だと感じています。

二つ目は、イラスト書道家である和全さんとの出

会いがありました。和全さんから「どのような人生を送り、人との出会いをいかに大切にしてきたのかについての話」を聞きました。講演の中で、書道パフォーマンスを披露していただき、何事にも「あきらめない」という私からのメッセージを伝えてもらいました。初めて見る書道パフォーマンスに夢中になる子供たちでした。この出会いで、子供たちは夢を持つことや夢をあきらめないことの大切さを感じることができました。

6年生になってからは、新1年生との出会いがありました。コロナ禍でもあるため、例年通りの触れ合いは出来ない中、子供たちに何が出来るかを考えさせました。校区を巡りながらウォークラリーをし、1年生を楽しませようと一生懸命になる子供たちからは出会いを楽しむ様子が伝わってきました。

このように、子供たちは人や出来事との出会いを積み重ねてきたことで、様々な感情に触れることができました。今後も中学進学に向けて、子供たちに様々なよき出会いがあればと切に思います。



イラスト書道家 和全さんと

附属学校の取り組みは今

福岡教育大学附属福岡小学校

副校長 平川 洋一

本校は、これまでに文部科学省の研究開発学校の指定を受け、平成元年度改訂の「生活科」創設、平成10年度改訂の「総合的な学習の時間」新設など、我が国の教育の基軸となる学習指導要領改訂に大きく寄与してまいりました。

現在は次期学習指導要領改訂に向け、平成27年度からの研究開発学校指定を継続・延長しています。本校に与えられた課題は「未来社会を創造する資質・能力の育成と時数削減に関する研究」です。

そこで資質・能力を省察性、協働性、創造性の3つに定め、その育成のために教科再編や内容の精選を実施し、カリキュラム・マネジメントを行いつつ全学年総計733時間削減し一定の成果を得ました。

令和4年度は研究の最終年度です。これまで構築してきたカリキュラムの妥当性を検証し、研究開発学校としての新教育課程の試案を提案致します。

城山会の皆様におかれましては、令和4年6月2日、3日の「授業づくりセミナー」、並びに、令和5年2月22日、23日の「教育研究発表会」には是非ご参会いただき、児童の姿を見て忌憚のないご意見を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

福岡教育大学附属福岡中学校

副校長 山邊 孝之

昨年度から本格的にスタートした国のGIGAスクール構想。本校でも、一人一台端末と校内ネットワーク整備により、高速大容量の中での教育活動が実現しました。これにより、生徒は端末を学習道具として日常的に活用し、操作技能も高いレベルで習得しています。さらに、教師の実践も進み、例えば保健体育科では、ゴール型スポーツにおける攻守のポジションをドローンで空撮し、その画像で攻め方を考え、体現する活動が可能になってきています。また、ICTを積極的に利用した活動を取り入れることと併せて、中教審答申にある「個と協働の学び」を一体的に実現する授業づくりにも取り組んでいます。そもそも、学校は、人と人とのつながりの中での学習活動を通して、楽しみながら、そして、悩みながら深く考え、豊かに表現して、学び、成長していくところでもあります。今後とも、個と協働の学びが響き合うような「質の高い学び」を追究し、その成果を披露することで、地域に貢献できる学校を目指して参りたいと思います。

東京パラリンピック柔道男子66キログラム級 銅メダル！

特別支援教育教員養成課程中等教育部 4年生 瀬戸 勇次郎

この度、東京2020パラリンピック競技大会柔道男子66kg級で銅メダルを獲得することができました。福岡教育大学、城山会の皆様におかれましては多大なご支援と温かい応援をいただきまして、ありがとうございました。

私は現在、福岡教育大学の特別支援教育教員養成課程に属しており、主に視覚障害児教育について勉強しています。ここで学んだことと、柔道での経験を生かし、教育の分野から障害者スポーツ・パラスポーツの発展に貢献することを将来の目標としています。

今回のオリンピック・パラリンピックはコロナ禍という未曾有の状況の中で開催されましたが、そのような状況でも大変大きな盛り上がりを見せました。これは多くの人々にとってスポーツが生活を豊かにするツールとして欠かせないものとなっていることを示していると思います。同様にパラリンピックの未だかつてないほどの盛り上がりを見ると、パラスポーツもまた障害者にとって、そして健常者にとっても社会や生活を豊かにする上で大きな役割を担っていると感じました。実際にパラスポーツ・パラリンピックを通して出会った選手や関係者、選手

村ですれ違う世界各国のパラアスリートは皆、とても生き生きしていましたし、それを応援してくれる人々も皆、競技を見ること、支えることをとても楽しんで見えていました。

そんな光景を見て、私が将来特別支援学校で教師となった時には、生徒たちに私の得た経験や感じたこと、学んだことを伝えていきたいと改めて強く思いました。そして、スポーツの楽しさを知ってもらい、選手として、観戦者として、もしくはそれらを支える立場からスポーツに関わり、より豊かな人生を送ることができるようサポートできる教師になりたいと考えています。

※城山会会報50号の「教師をめざして」でパラリンピックへの決意を述べた瀬戸勇次郎さんが、その夢を実現しました。今回はその体験を寄稿してもらいました。



柔道男子66キログラム級3位決定戦

第二の人生を生き生きと

え～ お笑いを一席

私と落語との出会いは今から50年以上前小学生の頃に遡ります。NHKラジオに「古典落語」という番組を見つけ、早速聴いてみると江戸の情景が目には浮かびハラハラドキドキ。この時聴いた『岸柳島』が現在までの落語の原点です。それ以来落語とは長い付き合い、そして私のライフワークになっています。高校では演劇部落語班があり、入部して校内の文化祭などで落語をしました。

大学でも落語研究会に所属しました。当時は漫画「泣くな十円」というのがあり、そこから『拾円（じゅうえん）』という芸名を先輩に付けて貰いました。大学祭だけでなく土穴公民館などでも落語を披露しました。卒業後は北九州市や久留米市の中学校に勤務し、文化祭などで落語を披露していました。

ある時「おやじの会」で、一人の保護者から「私は久留米落語長屋に所属していますよ。一緒に活動をしませんか？」と誘われ、落語長屋のメンバーになり現在に至っています。芸名は本名の三谷（みたに）をよく「みつや」と読み間違えられるので「蜜家泡浮（みつやさいだあ）」で高座に上がっています。娘や孫達にも芸名があり、小咄を少しずつ教え

久留米支会 S52卒 特設課程数学科 三谷 浩一

ています。

出囃子は大好きなDeep Purpleの「Smoke on the Water」の三味線バージョンです。こういう出囃子は、多分私だけかも知れません。

久留米落語長屋は2ヶ月ごとに定例落語会を開き、要請があれば地域の公民館・公的施設や酒蔵等で寄席を行っています。寄席文字書き・高座づくり・音響や録画・三味線や太鼓によるお囃子など、それぞれの得意分野で寄席をつくりあげています。

昨年は数名のメンバーと一緒に、大阪で行われる全国社会人落語大会に応募しました。一次CD審査には通過したのですが、二次審査はコロナ禍のため残念ながら辞退しました。今年もう一度挑戦をして、自分の力を試してみたいと思っています。

そのためには練習！ 練習！



地域の文化祭で一席

新たな挑戦

英語が苦手な、英文を見るだけで気持ちが悪くなる。そんな私が退職して、語学留学を試み、海外で一人で旅するなんて、思いもよらないことでした。

もともと「世界中の人と自由に話せたらどんなにステキだろう」という思いがありました。ダイビングをしにモルディブに行った際、潜った後は皆でテーブルを囲み、お酒を飲みながら楽しく語り合っていました。そこには、イタリア人、フランス人等々、様々な国の人たちが普通に英語で語り合い、笑い合い…。そんな様子を横目で見ながら、すすごとと帰っていくしかない日本人の私と夫でした。

退職して親の介護も終わり、一念発起してフィリピンのドウマゲテに1ヶ月、語学留学に行きました。その理由は、フィリピンの公用語が英語で費用も安かったし、また、その学校は座学だけでなく体験型学習を重視していたからです。

学校では1ヶ月間、寝ずの日々でした。午前中は発音や会話などの授業、午後は街に出た実践。幸い学校は学園都市にあり治安が良く、夜も女性一人で出歩けるぐらい。そんな街だからこそ、毎回、様々な課題が与えられ、それを一人で解決するという学習でした。街の人にインタビューしたり、ある時は

筑紫支会 S57卒 小学校課程理科 平井 崇子

市場に行き、売り子をしたり…。英語で「安いよ、安いよ～。そこのお兄さん、買って行って～」などの呼び込みもしました。そして週末には、その様子や学んだ事を先生方に英語でプレゼンをする、というなかなかハードな日々でした。その後も2回程、オーストラリア等に留学しましたが、英語がうまくなったというより、学んだのは「怖がらずにどんどん話しかける勇氣」でした。

英語力は「相変わらず」でしたが、自分で話したい欲求に駆られ、エーゲ海の島々を一人で周ったりイギリスを旅したり…。まさに珍道中で、カバンを盗まれる、ホテルにたどり着かない・入れない、船から降りられない等々。毎回苦難だらけの旅でしたが、人生は変わりました。

今後、学びと勇氣をもって挑戦を続け、人生を楽しみたいと思います。



ギリシャ（エーゲ海）
サントリーニ島にて

本学の教員採用試験の状況について

福岡教育大学 キャリア支援センター

1. 本学現役学生の教員採用試験の状況と県内の教員募集数の推移

令和3年度は、新型コロナウイルス感染防止の取組の中で、昨年度に引き続き今年度も全国的に受験科目等に大幅な変更があり、「集団討論」「集団面接」などの集団で行う試験が、多くの自治体で中止となりました。

本学現役学生は、そのような状況下において不安を感じながらも、教員採用試験突破に向けて真摯に取り組んできました。過去5年間の本学現役学生の教員採用試験合格率の推移は右の表1のとおり、中等は増加傾向ですが、初等・特支は減少しました。初等は募集数の減少化の影響も考えられます。ただ、最終合格者実数は昨年度より現時点で27名の増加となっています。

下の表2の教員募集数は、小学校は福岡県・福岡市・北九州市ともに減少し、福岡県高等学校と北九州市の中学校・特別支援学校も減少しました。福岡市の中学校・高等学校・特別支援学校は増加を示しました。福岡県の特別支援学校は4年連続で増減がありませんでした。

表1 過去5年間の本学現役学生の合格状況 (令和3年度;令和3年11月12日現在)

	初等	中等	特支
29年度	62.3%	32.2%	67.4%
30年度	65.8%	46.3%	69.8%
元年度	80.1%	41.5%	85.7%
2年度	86.2%	45.6%	74.5%
3年度	83.9%	50.0%	73.1%

表2 福岡県内の教員募集数の推移

実施年度	小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
	福岡県	福岡市	北九州市	福岡県	福岡市	北九州市	福岡県	福岡市	北九州市	福岡県	福岡市	北九州市
29年度	600	300	105	250	171	50	161	6		80	60	25
30年度	710	150	160	240	61	93	172	8		110	70	45
元年度	710	180	160	240	150	108	180	2		110	70	50
2年度	670	285	150	280	145	88	177	6		110	70	60
3年度	660	280	140	290	171	50	154	13		110	75	50

2. 福岡県内の教員採用試験の状況

合格率でみると、小学校・中学校は福岡県・福岡市・北九州市ともに増加傾向にあります。福岡県の高専は微増ですが、特別支援学校は福岡県・北九州市で微減となっています。

昨年度は北九州市の1次試験が中止になったことで、他自治体〔福岡県・福岡市〕との併願が可能でしたが、今年度は1次試験が実施され、1次試験免除者（複数免許保持者・大学推薦者）のみ併願が可能となりました。本年度の結果を踏まえ課題を追求し、本学学生の進路実現に向けた対策の充実を図ります。

表3 過去5年間の福岡県内の教員採用試験合格状況 (令和3年度の数値は令和3年11月12日現在)

実施年度	小学校					中学校					高等学校					特別支援学校					
	募集人数	出願数	1次合格	最終合格	合格率	募集人数	出願数	1次合格	最終合格	合格率	募集人数	出願数	1次合格	最終合格	合格率	募集人数	出願数	1次合格	最終合格	合格率	
福岡県	H29	600	154	137	125	81.2%	250	86	44	40	46.5%	161	54	10	7	13.0%	80	21	17	10	47.6%
	H30	710	113	107	98	86.7%	240	65	41	26	40.0%	172	59	22	14	23.7%	110	15	10	9	60.0%
	R1	710	163	148	139	85.3%	240	61	44	34	55.7%	180	43	22	9	20.9%	110	26	21	15	57.7%
	R2	670	127	123	110	86.6%	280	59	42	35	59.3%	177	45	19	9	20.0%	110	23	20	15	65.2%
	R3	660	108	105	100	92.6%	290	52	46	31	59.6%	154	50	31	11	22.0%	110	17	17	11	64.7%
福岡市	H29	300	170	124	90	52.9%	171	119	66	38	31.9%	6	1	0	0	0.0%	60	29	24	15	51.7%
	H30	150	73	42	24	32.9%	61	43	22	2	4.7%	8	2	0	0	0.0%	70	16	15	8	50.0%
	R1	180	54	34	23	42.6%	150	23	20	7	30.4%	2	0				70	11	9	7	63.6%
	R2	285	53	47	37	69.8%	145	22	14	10	45.5%	6	1	1	0	0.0%	70	8	8	7	87.5%
	R3	280	71	65	50	70.4%	171	24	22	17	70.8%	13	3	2	0	0.0%	75	8	8	7	87.5%
北九州市	H29	105	12	11	9	75.0%	50	27	16	8	29.6%	福岡県に含む					45	3	3	3	100.0%
	H30	160	25	23	22	88.0%	93	21	13	10	47.6%						50	6	6	6	100.0%
	R1	160	30	24	23	76.7%	108	13	6	4	30.8%						50	6	6	5	83.3%
	R2	150	61	61	46	75.4%	88	22	22	12	54.5%						60	13	13	11	84.6%
	R3	140	41	40	37	90.2%	50	16	15	12	75.0%						50	5	5	4	80.0%

令和3年度 役員等の名簿

◆本部

Table of department members including roles like 会長, 副会長, 幹事長, 副幹事長, 書記, 会計, 事務局 and names like 太田勝視, 阿部二三子, etc.

◆会計監査

Table of accounting and audit members with names like 因征四郎, 平山志, etc.

◆幹事

Table of executive members with names like 小崎俊司, 多和田久, etc.

Table of members by region (福岡市, 北九州市, etc.) and department (事業部, 広報部, 女性部, 青年部).

◆支会

Table of branch members with names like 中村親良, 杉山大樹, etc.

Table of members by region (北九州, 北筑後, 南筑後, 筑豊, 京築, 県立高校).

◆支部

Table of branch members by prefecture (佐賀県, 宮崎県, 長崎県, 山口県, 熊本県, 大分県).

編集後記

令和三年(二〇二一)もコロナによる感染拡大が収まらず、一年延期された東京二〇二〇五輪・パラリンピックも無観客開催となりました。国内ではワクチン接種が進み、やや収束の兆しが見えてきたものの新たな変異株の出現でこの先が見通せない状況です。城山会においても、総会を始め多くの行事が中止となりました。支会活動も状況は同じだったようです。対面での会議が減少する中、会報誌の意義は一層高まっています。広報部では紙数を減らしながらも、発刊を継続し会員の元気な姿を紹介し、絆を深めたいと考えています。(上野)

令和3年度 事業実績

Table of activities and achievements for the fiscal year, listing dates and events like 入学式, 総会, 卒業式, etc.